

## 同好會報

○會費割引廢止 新會員歡迎の意味で過去數ヶ月の間、同好會費は一ヶ月年金參圓、半々年金壹圓七拾錢の割に割引して受納して来たが、財政困難のため、改めて、六月よりは厳密に一ヶ月年金參拾錢の割合とする。

○フレテン發刊 暫く中絶してゐた本會觀測部のフレテンは續刊されることになり、去る五月二十五日第四十七號(三つの新彗星の位置表)を出した。

○五月例会 去る五月十一日(月)本部例会を開つた。會場は大學集會所の部合惡しく、従つて大學天文臺内に變更。まづ山本教授の「彗星の話」あり、その後暫く談笑。次で一同新着の三十三センチ反射鏡を見、後、十八センチ赤道儀で七星を觀望した。——大阪や福知山や大津ありたりからも來會された會員があつた。

○同志社支部例会 去る六月五日神學館樓上で開會、山本教授の「月の觀察」といふ講演があつた。集る者四十名ばかり。

○大阪支都總會 去る六月七日(日)船場小學校で開催、午後三時から左の講演があつた。

太陽と其觀測法 教授 山本一清氏  
それから、別の場所では山本教授の歸朝歡迎宴を開いた。

同支部は今後毎月第二金曜日日没時から船場小學校(西區安土町二丁目)應接室で例会開催のことに決定。

又、同支部では今般上島、内海茂兩氏に支部幹事を囑托した。尙、他に吉岡哲夫、前田徳三郎、宮森作造三氏も従前通り支部幹事として諸事幹旋せられる。

○神戸支部 去る六月八日(月)支部總會を開いた。まづ午後五時半より下山手六丁目の青年會食堂で山本教授の歸朝歡迎會、次で七時半から別室で講演會開催、山本教授の「タムの問題」گریヘチ天文臺其他なる講演があり、其の後、三浦幹事は來會者五十名ばかりに、同好會の紹介をせられた。

因に、神戸支部は今後毎月第二日曜日の夕刻から青年會館圖書室で例会を開くことに決定。

○夏期講習會の諸計畫 同好會の各地々方支部では今夏天文學講習會を開かんと計畫してゐる所が多い。其の中、ほゞ確定したものは

岡山支部主催 來る七月三十一日より三日  
間、山本教授の「天文學の歴史」  
松本支部主催 來る八月中旬、約三日  
間、山本教授出張の筈。題未定。  
大牟田支部  
高水支部

右何れも詳細は支部幹事に問合はされたい。

○簡易星圖改版 此の星圖は手輕なため發刊の最初から飛ぶやうに賣れて行き、本部には幾らあつても足りない程である。今般第三版を刷つたが、此の機會に可なり内容が改まり、益々好いものとなつた。(一枚拾錢、郵送料不要、同好會本部發賣)

## 五二

### ○岡山支部五月通信

一、例会。二日午後七時から岡山市立商業學校で開催。

太陽の光 六高教授宮原 節氏

理科年表について 關中教師水野千里氏

二、講演會 四日午後二時から、名譽會員守屋荒美雄氏御郷里の淺口郡河内小學校で開催。赤道と中緯度地と極とに於ける星の視運動 守屋荒美雄氏

大熊星座と小熊星座 水重 千里氏

午後七時から再開。

星座の話 水野 千里氏

天體觀測 指導者 同 氏

三、天界研究會 九日午後七時から宮原幹事宅で開催。

四、天體觀測會 十一日、十九日、二十五日及び二十九日支部で開催。

五、講話會。

1. 十四日午後二時からミカド理學會で土星の話 水野 千里氏

太陽の話 大河原嘉徳氏

2. 三十一日午前九時から岡山地理談話會で天球に就いて 水野 千里氏

六、天文幻燈 十六日午前十一時から岡山縣立商業學校で開催、水野幹事一々説明した。

七、觀測部員水野幹事は變光星部と太陽部とに加入。

○同志社支部 去る六月十五日再び例会開催の之れが今學期の最終會。山本教授の「宇宙の構造」と題する講演あり。後茶話會。集る者五十名。

# 編輯室より

こんどの號の編輯は誠に大事業であつた。ながい前からの思ひ付きではあつたが、天文雜誌には重要な毎月の天象豫報欄の大擴張を先づこゝにやり遂げて、面目一新した本誌を見ることは、編輯同業者のみならず、讀者の方々にも同感者が多からうと思ふ。今は「天界」の讀者もいろいろで、こんどの新しい豫報欄を全部活用して下さる方は案外少數かと思ふけれど、毎號かうしたものを載せ続けるうちには、だん／＼意味も分つて來、數年後には此のページが最も歡迎されるページになるさ信じる。——大きなことを言ふやうだが世界中のあらゆる天文雜誌をさがしても、此れほどの豫報欄を持つてゐるものは一つも無い。「天界」の誇りであり、又、日本の誇りである。

今後、此の豫報欄は、全部、同好會の觀測部に新設された豫報課の仕事になる。加勢申し込みの人数が既に十人ほどもあるから、差し當り、不自由は無からうと思ふが、しかし尙、此の上にも新しい希望者があれば歡迎で迎える。

上田助教の掩蔽描畫法は、始めての人々には難解かも知れないが、本當に天文好きの人には喜ばれると思ふ。どうか此の方法を應用して、各地で見える毎月の掩蔽を計算をする人が多く出て貰ひたい。近々のうちに、札幌、仙臺、東京、京都、福岡、上海、京城、臺北あたりで、それ／＼見える掩蔽の計算を

誰かによつて頂いて、毎月の本誌に載せたいと思ふ。——掩蔽の現象は、月の運行を研究するために重要なものであるが、時計さへ正確であれば、八センチ(三吋)ぐらゐの望遠鏡でも觀測し得る。時刻は無線によつて容易に受信し得る今日の時代であるから、この掩蔽などの觀測も専門家以外に向くやうになつて來たさも考へられる。

豫報欄の大擴張に伴う記事や準備のために、本誌は豫定の形に編輯することが出來ず何もかも棒に振つて了つた。しかし最早、段取りは整つたんだから、次號から落付き、まづ「新築天文臺記念號」を手始めに、いろいろ、内容の充實を圖りたいものである。本誌の編輯に對する讀者諸氏の批評が承りたい。

同好會は、觀測部にも種々興味ある觀測が報告せられる。殊に太陽黒點は今全國に五六人も活躍してゐられることは、學界のために頼もしい。かうした結果を近いうちに、「天界」や「アプレテン」に發表したい。

アプレテンは第四十八號が出た。此頃は晴れた空には彗星觀測が望ましいので、彗星の位置豫報がアプレテンに多く載る。——何しろ、日没後には、シャインさ、リードさ、カルキス、テムベルさ、四つの彗星が同時に見えてゐるのだから。

**廣告** 十一センチ(四吋餘り)の望遠鏡を賣りたき人あり。本部へ申込まれたし。

# 天文同好會

- 本社 京都帝國大學  
 本部 京都市同志社大學内  
 東京支部 京都市同志社大學内  
 京都支部 京都市錦小路東側  
 西陣支部 京都市七本松五辻下  
 三條支部 京都市第三高等學校  
 神戶支部 西區安土町二丁目船場小學  
 大阪支部 兵庫縣生田町四丁目  
 甲南支部 兵庫縣尼崎町  
 美山支部 岡山市門田二十一  
 名古屋支部 岡山區千種町高見三七  
 名古屋支部 長野縣上田市木町  
 長野支部 長野縣上田市木町  
 高水支部 長野縣上高井須坂小學校  
 松本支部 長野縣松本市藥師部  
 諏訪支部 長野縣諏訪中學校  
 廣島支部 廣島市研屋町五一  
 山口支部 福岡縣大牟田市龜甲町  
 山口支部 山口高等學校化學教室  
 下關支部 下關市本町五丁目大津屋  
 仙臺支部 仙臺市第二高等學校  
 北支支部 札幌測候所内  
 上海支部 上海崑崙山路禮堂里二二
- 大正十四年六月二十四日印刷 定價三十五錢  
 大正十四年六月二十五日發行(郵便金五厘)  
 聖德院局私書閣第十一號
- (京都市同好會)  
 編輯兼發行者 天文同好會  
 振替貯金大阪五六七六五番  
 右代表者 京都市下京區西洞院七條南入  
 印刷所 内外出版株式會社印刷部
- 賣捌所 東京京橋銀座尾張町